

平成26年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
① 授業改善に一層取り組み、学力向上を図るとともに資格取得を奨励し、生徒全員の進路実現をめざす。	① 研究協議会やシラバスの内容を改善するとともに、新学習指導要領に沿った評価基準により、学校全体で授業改善に取り組む。	各教科と学科で授業改善についての取組を A 各学期に3回以上取り組んだ B 各学期に2回取り組んだ C 各学期に1回取り組んだ D 全く取り組むことができなかった	教職員対象に 12月にアンケート調査 A: 20% B: 71% C: 9% D: 0% 評価: A・B合わせて91%	アンケート結果は、A・B合わせて91%となり、判定基準の75%をクリアした。2学期を中心に研究授業を実施し「言語活動の充実」を意識した取組と、新たに付箋紙を使ったKJ法の研究協議が行われた他、全教科で書画カメラ等のICT活用の「研究・公開授業」も行われたためと考えられる。 次年度に向けては、昨年より8ポイントアップし、Dも0%となったが、Aの割合が減少しており毎月の取組にまで至っていない。判定基準を80%とし、次年度も授業改善の質を高めていきたい。
	② 学力向上を図るために授業の課題やレポート内容を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して家庭での学習習慣を身に付けさせる。	課題・レポート・資格取得などや家庭での学習活動について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に 12月にアンケート調査 A: 33% B: 52% C: 14% D: 1% 評価: A・B合わせて85%	アンケート結果は、A・B合わせて85%となり、中間評価の87%から2ポイント減少したが、3年振りに80%台に戻り目標の80%をクリアできた。A「十分取り組むことができた」の増加が中間評価時のまま継続できた為と考えられる。近年の、朝・昼・放課後・夕方以降の補習時間の増加により減少していた家庭での学習の活動がようやく3年前の水準に戻った。 次年度に向けては、別の調査では家庭学習をしている生徒数が増加していることを考えると、判定基準を継続し、補習後の家庭学習を行うような指導の工夫により、家庭での自発的学習を促したい。
	③ 全教員が愛読書を薦めたり、昼食時の出前図書などの読書運動を全校的にを行い、生徒に読書の習慣を身につけさせる。	2学期末での貸し出し図書数が A 450冊以上 B 325冊～449冊 C 250冊～324冊 D 250冊未満	12月末に調査 12月末現在は1,571冊 評価: A	2学期末での貸し出し図書数が450冊以上としたが、1学期末ですでに657冊、2学期末では1,571冊である。生徒1人当たり貸し出し図書数も4.41冊である。今年度の貸出数が昨年より338冊も多かった。しかし、76.4%の生徒が一冊も借りていない現状もある。次年度は本を借りる生徒を増やし、読書する習慣が多くの生徒に身につくよう図書課だけでなく担任や進路指導課との連携を深めていきたい。
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、土曜授業や課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 800人以上 B 700人～800人未満 C 550人～700人未満 D 550人未満	1月末の資格・検定試験合格者数を検証 1月末現在は925人 評価: A	1月末現在の集計では、資格・検定試験合格者数は925人となり、判定基準であるB評価(700人以上)を達成できた。2学期以降に受験した多くの資格・検定について、土曜授業をはじめ、工業3学科・クラス担任の連携した受験奨励および補習(朝・昼・放課後・夜)の充実等により目標が達成できたと考えられる。今年度は昨年度の同時期に比べ合格者数がやや少ないので、前年度をやや下回ることが予測されるため、次年度も判定基準を本年度と同じとして実施し、受験奨励と指導の充実により合格者数を増加させ、学力向上と進路実現につなげたい。
	⑤ ジュニアマイスターのゴールドおよびゴールド特別表彰、シルバー、校内顕彰ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	ジュニアマイスターおよび校内認定者数が学校全体で A 60人以上 B 50人～59人 C 40人～49人 D 39人以下	1月の申請者数を検証 104人 (ゴールド 42人) (シルバー 62人) 評価: A	1月末現在の集計で、ジュニアマイスター顕彰申請者の延べ人数はゴールド・シルバーの合計が104人で過去最高となり、A評価となった。また、「ゴールド特別表彰」についても過去最高の9人となった。申請者数が増加した要因は後期に2年生の申請者が多数だったことによる。また、「ゴールド特別表彰」については、近年、比較的点数の高い技能検定の合格者が多数いたことが要因であると考えられる。次年度の判断基準については申請者数の変動を考慮して今年と同じ判定基準の実施を考えている。今年の結果に満足することなく、3年間通してジュニアマイスター顕彰認定を目指し、学校全体で資格・検定への挑戦意識をさらに高めていきたい。
	⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が高まった生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	生徒対象に 12月にアンケート調査 評価: A (93%)	意識が高まった生徒は、全体で93%であり評価はAである。中間評価より、3ポイント高くなった。10月の2年生全員参加のインターンシップでは、進路選択に役立ったとする生徒の割合は、88.7%であった。12月の1・2年生全員参加の「卒業生による地元企業を知る会」では、自分の進路に役立ったという生徒は、95.7%と好評であった。3月には、大学生を呼んでの語る会も予定している。次年度も学年団や各工業科と協力して行事や学年ごとで必要とされる進路資料の作成、活用方法を検討し、計画的に取り組んでいきたい。
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。基礎学力の定着を図り、試験対策を十分に行う。外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	学力テストや面接指導等により、実力がついたと感じる生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満 就職の内定率が A 100% B 95%以上100%未満 C 90%以上95%未満 D 90%未満	3年生を対象に 12月にアンケート調査 評価: A (91%) 3年生を対象に 12月末に調査 評価: A	実力がついたと思う生徒は、91%であった。評価はAである。毎朝のSHで3分間スピーチの取り組みや基礎問題の取組を行った。夏休みを利用しての基礎学力の補習も行ってきた。7月からは、面接指導を学年会や工業各科、管理職と協力し、本試験まで繰り返し行ってきた。また進学希望者に対しては、高校の基礎固めとして6月から1月まで毎日科目を決めて補習を実施してきた。次年度も、企業の求める人材について積極的に研究し、その力を継続的につけさせるとともに、進学希望者に対しても効果的な指導を行ってきたい。 12月までに73名が内定した。就職希望者全員が内定を得た。評価はAである。求人件数は、昨年度より180件ばかり増加した。地元以外の県内や関東地区で大きく増加、特に建設業が大きく増え、製造業、サービス業等も増加した。一方就職希望者数は、60%前半と昨年度よりは減少した。次年度は、普段の指導を継続させると共に、企業が求める人材の情報を積極的に集め、計画的に対応していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	日々改善に取り組んでいる企業にとって、工業高校生は貴重な存在であり、就職後活躍していくために、是非高校生のときから考える力を培ってもらいたい。図書館から本を借りていない生徒が多いが対策はどうか。部活動や資格取得に対して先生方は本当によく指導してくれており、資格取得・検定合格の状況は評価できる。部活動では、協調性やコミュニケーション力を育むことも視野に入れて教育して欲しい。入学者選抜学力検査の倍率が一倍を確保したが、今後も中学生に対してよりわかりやすいPRをすることが大切である。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	生徒の考える力の向上等を目的として授業や考査問題等の改善を行っているが、今後とも一層積極的に改善を行っていく。図書便りで図書館から本を借りた生徒数を定期的に発表したり、出前図書の取り組みを通して本を借りる生徒数を増やしていく。資格取得に対する生徒達の意欲は高まっており、今後とも組織的に指導していく。現1,2年生では8割の生徒が就職希望である。来年度から毎日10分間の朝学習を行い、基礎学力の定着や3年生の就職試験に向けての学力向上を目指す。各中学校で実施される生徒対象の高校説明会や、昨年度から本校独自で始めた中3の保護者対象の高校説明会(昨年度は6カ所で開催)では、できるだけわかりやすく説明し、本校の魅力を伝えていきたい。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2. 生徒会活動や部活動を活性化させ、規範意識を高め、心身ともに健全で逞しい人づくりをめざす。	① 本校の運動部は、県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位を目指し、高体連表彰取組賞を獲得する。	高体連基準総合得点が A 6.5点以上 B 5.5点以上6.5点未満 C 4.5点以上5.5点未満 D 4.5点未満	県総体、県新人大会の成績結果を検証 57.0点 評価: B	県高等学校総合体育大会の総合成績は男子11位、取組賞部門で2位であった。総体ではヨット部・弓道部男子が団体優勝しインターハイへ出場した。総体上位(ベスト8)に入賞した部は、バレーボール・柔道・剣道・ラグビーである。また、新人大会ではヨット部が団体優勝し、上位(ベスト8)に入賞した部は、弓道・柔道・剣道・ラグビーであった。次年度は、部員数を増やしているバドミントン・サッカー部に期待し、来年度も取組賞をめざしたい。
	② 文化部で部活動への重複加入を奨励し、各部の取組や活動に生徒が積極的に取り組む。	文化部の活動に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	各文化部対象に12月に調査 A: 4.3% B: 4.6% C: 8% D: 3% 評価: A・B合わせて8.9%	中間評価と比較するとA3.7%→4.3%、B4.9%→4.6%、C1.3%→8%、D1%→3%でA・B合わせて8.6%→8.9%で、3ポイントアップであった。これは9月末に羽工祭があり、その発表や展示にむけての活動や当日の評価に満足しているからと考える。次年度も、この結果を検証しさらなる文化部活動の充実した活動を図り、より積極的に取り組ませたい。
	③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、自主的に参加する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に12月にアンケート調査 A: 4.3% B: 4.8% C: 6% D: 3% 評価: A・B合わせて9.1%	中間評価ではA・B合わせて9.1%で今回の調査結果とほぼ同じであった。これは非常に高い評価である。今年度も年間を通して意識が高かったことが伺える。次年度もさらなる工夫と多くの意見を取り入れ、生徒の自主性を育み行事への参画意識を高めたい。
	④ 倫理観・道徳意識(モラル)に関する全校一斉朝読書・読み聞かせを行い、規範意識の向上を目指す。	学校の教育活動や朝読書・読み聞かせにより、ルールやマナーを守り、モラルが身についていると感じているか A 十分に身につけている B おおむね身につけている C あまり身につけていない D まったく身につけていない	生徒対象に1月にアンケート調査 A: 2.2% B: 7.6% C: 2% D: 0% 評価: A・B合わせて9.8%	A・B合わせて9.8%と、中間評価に比べ2ポイント上昇している。本校生徒の規範意識が非常に高いと読み取れる。また、教職員にもアンケートを実施した結果、9.6%の教職員が本校の生徒はモラルが身につけている回答し、生徒の意識と近い値が得られた。教職員と生徒の「読み聞かせ」に対するアンケートと感想から、非常に良い取組であったという評価を得ることができた。来年度は評価基準をより具体的にし、引き続き実施していきたい。
	⑤ 保健だよりや集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	生徒対象に1月にアンケート調査 A: 1.5% B: 5.8% C: 2.2% D: 5% 評価: A・B合わせて7.3%	A・B合わせて7.3%と中間評価の7.7%に比べ意識している生徒の割合が4%減少し、目標としていた7.5%に届かなかった。今年度と比較すると1年生が6.9%、2年生が7.0%、3年生が8.0%であった。振り返ると、熱中症について特に注意を行った前期に比べインフルエンザ防止について注意を喚起した後期に意識が低下している結果となった。しかし、次年度の判定基準も今年度と同じとし、より一層、健康管理に対する意識向上を目標に取組を強化したい。
3. 工業学習成果の提示や奉仕活動等を通して地域社会との連携を深め、環境問題や社会貢献に対する意識を高める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、校外でも一日一善運動を推奨する。	一日一善運動について A 毎日必ず実践している B できるだけ実践している C あまり実践していない D 全く実践していない	生徒対象に12月にアンケート調査 A: 2.2% B: 5.8% C: 1.5% D: 5% 評価: A・B合わせて8.0%	中間評価と比較するとA1.7%→2.2%、B6.6%→5.8%、C1.5%→1.5%、D2%→5%でA・B合わせて8.3%→8.0%で3ポイントのダウンはしたものの、判断基準の7.0%はクリアした。しかし、全く実践していないと答えた生徒が増えたことを検証し、次年度に活かしたい。次年度もさらなる改善・工夫と不断の啓発活動を続けていきたい。
	② Webページの定期的更新間隔を短くし、学校全体の情報公開のスピードを上げる。また、教育活動や部活動のタイムリーな情報を発信し、更新状況等を分かりやすくする。	ホームページを更新した回数が A 6.0回以上 B 5.0回以上6.0回未満 C 4.0回以上5.0回未満 D 4.0回未満	各担当に12月に調査 更新回数: 4.1回 評価: C	1月までの各課・科や部活動のホームページ更新回数が4.1回となり、判定基準である5.0回以上をクリアすることはできなかった。今年度は判定基準を昨年より1.0回増加させて臨んだが、例年並みの結果に終わった。まだまだ職員自らの情報発信の意識が高くなっているとはいえ、簡単に更新できるような仕組みづくりと情報検索しやすくなる工夫が求められている。次年度は判定基準を継続し、アップデート方法の改善に取り組む、更に行事や部活動・学校の活動状況の掲載を増やすよう努力するとともに、今後も教職員への情報発信をこまめに働きかけて目標を達成したい。
	③ 環境保全のこれまでの取組を継続し、ゴミ分別等が正しく行われているかを評価し、美化意識の向上を目指す。	1.8点以上の教室が A 9.0%以上 B 8.0%以上9.0%未満 C 7.0%以上8.0%未満 D 7.0%未満	ISO委員により9月、12月に各教室を1週間調査(1日2.0点満点で評価) 1.8点以上の教室8.9% 評価: B	9月、12月の調査では1.8点以上の教室が8.9%で、評価はBであった。中間評価では評価がDであったため、定期的な掲示物や昼食時の放送で、生徒の取り組み意識が向上したと考えられる。次年度に向けて、継続的に取り組む工夫をし、更なる意識向上に学校全体で取り組んでいきたい。
		環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる割合が A 9.0%以上 B 8.0%以上9.0%未満 C 7.0%以上8.0%未満 D 7.0%未満	生徒対象に12月にアンケート調査 評価: B(8.9%)	12月調査の結果では取り組んでいる生徒の割合が8.9%であった。評価はBで、中間評価と同じであった。しかし、依然取り組んでいないと答えた生徒が1.1%いるので、次年度に向けて、更に掲示物や昼食時の放送で啓発活動を行い、意識が高く持てるよう学校全体で取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価	コンビニなどでゴミの分別をしない生徒を見かけるものの、全体として地域貢献をよく行っている。大川町へのゴミステーションの寄贈、羽咋駅の壁画制作など新聞で読んだが、このような活動をどんどんPRすればよい。学校からの通知がなかなか保護者に伝わらない。また、HPでマラソン大会への協力を保護者に呼びかけたのはよかったが、学校の新しい情報がすぐわかるようにHPの更新をより頻繁に行って欲しい。生徒の安全のために根気強く交通マナー指導を実施して欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	ゴミの分別は家庭と協力して指導していく。釜屋海岸の清掃、地域共同避難訓練等にも今後も学校全体で取り組み、地域社会との連携を深めていく。生徒指導については、挨拶運動、一日一善運動等生徒会活動とタイアップした運動や、毎月の規範意識週間での読み聞かせ等を通して、モラル意識の向上、いじめの未然防止に取り組む、成果を上げてきており、今後も工夫・改善をしながら継続していきたい。学校からの通知文を保護者へ確実に渡すように、生徒への指導を徹底したい。HPについてはシステムを変更し、更新が簡単に頻繁に行えるようにしていく。			